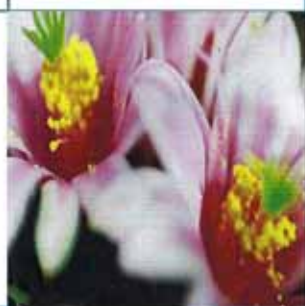


WIN CONCORD
コンコード

NEWSLETTER

2007
vol.17



日本の教育制度

グレン ビスナル (フィリピン)

日本の教育制度は、世界で最も理想的な制度のひとつであることは明かです。このことは、次の3点により証明されます。第1に、第二次世界大戦後わずか20年ほどの間に、科学や技術の発展を通じて達成した日本の近代化の過程は、教育制度の成功によるものであることは確かであること。第2に、義務教育ではない高等学校への進学がほぼ100%であることは、日本の学校運営制度に起因していること。第3は、2003年の国際数学・理科学力調査の結果、日本の小学4年生の数学と理科は25ヶ国中3位、中学2年の数学は45ヶ国中で5位、理科は6位であったことから分かるように、日本の教育過程が生徒の学力形成を強めていること。

和歌山大学に留学して、日本の教育制度と学校運営制度を研究できることは、私にとってこの上もない機会でした。星林高校や有田中央高校、貴志川高校などの高校の校長や県の教育委員会の方々と面談し、また様々な高校を訪問して授業を見学したことにより、日本の学校運営制度を明確に理解することができました。

日本の教育制度の長所は次の3点であると分析します。第1に、「教育改革の8つの原則」が革新的かつ時代に対応したものであること。8つの改革とは、①個人に重点を置く。②基礎に重点を置く。③創造性、思考能力、表現力を養うこと。④人間らしい教育環境。⑤幅広い選択の機会。⑥生涯学習制度の提供。⑦国際化教育の実施。⑧情報化時代に対応する教育。第2に、「統一的かつ多様な均衡のある学校教育課程」が成功の鍵であった。変化に富んだ教育課程が生徒と教師間に強力な相互作用を及ぼし、結果生徒に学ぶ意欲を与えたこと。第3に、「学校、家庭、社会の協調」ハワード・ガードナー博士は、親と地域社会が子供の教育に深く関わり合っているとき、学校はより効果的に機能すると述べています。

日本の教育制度がこれまで成し遂げてきた成果を今後も維持するためには、現在行われている次の点を強化する努力が必要だと思います。

(1) 行動研究

教育方法について反省したり、新しい教材を試したり、計画と目標を設定して行動研究するのは、直面する新たな問題を解決する、

いい手段になると思います。

(2) 課外活動の強化

不登校、勉強への不関心、校内暴力、いじめ等の驚くほどの増加を防ぐには、生徒の課外活動を維持する必要があると考えます。最近の研究によると、学校との繋がりを感じている生徒は、覚醒剤を使用したり、異常な行動を起こしたり、自殺を試みたりすることが少ないという結果でした。

(3) 自己評価と第三者評価の標準化システム

新しい社会に対応するため、教育制度も定期的に評価していかなければなりません。教育委員会も標準化された評価システムを確立し、実施し、高い評価を認められた学校を表彰したりすることも必要だと思います。

(4) 倫理教育の強化

若者の自殺は教育者が驚くほど増えていきます。自分の人生を大切にしたい気持ちはもっとも重要な価値観であり、もっと生徒に対して教え込むべきことです。もう一度昔の日本の躰（しつけ）教育を取り戻さなければなりません。

教師の研修生として、たった一年間の勉強では日本の複雑な教育制度のすべてを理解するのは不可能であることは百も承知ですが、それでもこの短い中で、何か貴重な洞察ができた気がしています。この素晴らしい体験を頂いた日本政府、特に文部科学省に、心から感謝します。この研修で得た知識を国に持って帰り、今混乱しているフィリピンの教育制度を改善したいと思います。私の和歌山大学での留学生活で、「正しい教育によって、人間は貧乏、無学、社会的な病から解放される」ことに確信を持つことができました。

二回目の留学生活

盧 青 (中国)

3年前交換留学生として和歌山大学で一年間勉強していたので、今回の留学は二回目です。和歌山の環境や人々とは親しくなったとはいえ、前回と違って、今度は私費留学なので、やはり不安でした。そのときこちらの先生たちからいろいろアドバイスをいただいて、迷っていた結果、もう一回日本へ留学することを決意したのです。振り返ってみると、もしそのとき決意できなかったら、

今はきっと後悔しているはずです。

前回の留学で一番残念なことは、ちゃんとしたアルバイトをしたことがないということです。今回は神様がその残念な気持ちに十分に配慮してくれて、中華料理屋さん、コンビニ、スーパー、アルバイト体験をたっぷりさせてくださったのです。そのお陰で、生活費と授業料を自分で払うことが出来ました。しかし、お金だけではなく、アルバイト体験そのものには意味があるのです。学校では教えてくれない日本社会のいろんなことが見えてくるので、社会学専攻の私にとっては、本当にいい勉強になりました。例えば、外国人に対して、日本人は極端に二つのタイプに分けられています。

特別にやさしくしてくれるタイプと外国人をばかにするタイプ、中庸の方はめったにないです。島国で同一意識の強い日本人は常にまわりに意識をじているので、中庸は難しいです。日常目にする何気ない事柄でも、そのあり方を考察することによって、文化的な価値が生まれてくるのです。最近たまに読んだ本の中に、次の言葉が書かれて、ここでみんなと一緒にもう一度読んでみたいのです。「文化の比較というのは、優劣を論じるのではなく、その違いを知ることが重要で、そこから本当の友好が始まる。文化の優劣を論じると必ず

喧嘩になり、国と国との喧嘩は言わずと知れた戦争だ。」、なんと素晴らしい言葉でしょう。

そして、学校とアルバイト以外、ボランティア活動にも参加しています。週に一回高齢者たちを集めて、みんなで食事したり、編み物したり、おしゃべりしたりするクラブです。80、90歳のお年寄り15人ぐらいいて、みんな元気で、しかも明るい方々です。ボランティアとはいえ、いつも私の方が励まされて、パワーをいただいています。その方々の姿を見て、人生って何だろうとつい考えてしまうのです。現代社会では人生はお金だという論調が強いですが、お金って何でしょう。全ての「全」という漢字に二点を加えたら、「金」になるが、つまり、お金が全てだと考えたら、本当の全てがなくなる、もちろん幸せも、人生の意味そのものもなくなるのです。90歳のおばあさんたちは人生を楽しんでいるのに、私たちはなんで余計なことで悩んでいますか。もっと楽しく、明るく、元気で頑張りましょう。

二回目の留学はこんなに価値があるのかと自分でも驚きました。初めての留学で得た中途半端な考え方や知識を今回でもう一度熟成することによって、前の幼い自分が恥ずかしく思いました。こういう気分は成長した印かなと自分なりに思ってしまった、嬉しいよりは重い気持ちでした。



キャンプを楽しもう

章 和飛 (中国)

やっとキャンプの日が来た！朝7時頃みんな車で出発した。キャンプを一度も経験したことがない私は興奮して谷口お父さんの車に乗り込んだ。山道で私は車に酔った。周りの景色の美しさは実感できなかった、勿体ないなあと思った。でも今度の酔った経験はそんなにづらい感じがしなかった。なぜかという、感動したことがあったから。谷口お父さんは自分の冷やした水を渡してくださった。ただ一本の水といっても、お父さんの優しさはもう心まで感じた。その時、私はただ「ありがとうございます」って言った。でもその時の私の気持ちはただ「ありがとうございます」っていう一言ではとても表現できなかった。

2時間半ぐらいに目的地に着いた。お母さんたちはもう料理を作ってくれていた。車に酔ったからちょっと食欲がなかったけど作ってくれた料理は香りにも彩りにも、人の食欲を出させる力もあるし、そして私は目の前に美味しい食べ物があると食べないではいられない人だから、やはり動けないほど食べた。(ダイエットはまた明日からだ)

午後は泳ぐ予定だった。泳げるといっても5メートルぐらいだ(なさけないことだ、泳ぐのはダイエットには一番なのに……)しかしせっかくこんなに美しい自然に来たのだから どうしても一度川辺に行きたかった。

川辺の景色の美しさは言葉では表現できないほどきれいだ。ほとんどの男の子は着くとすぐ待ちきれずに川の中に飛び込んで、夢中になって泳ぎ始めた。女の子はただあまり深くないところを選んで川の向こうへ渡っただけだった。(泳げない人は私一人じゃなく、よかった)みんな興奮して遊んでいるうちに川の水が急に満ちてきた。そして勢いよく巻き上がった。向こうに渡った人たち(私も)は戻れなかった。みんな心配でならなかった時、泳ぐのが上手な男の子たちはボートで私たちを一回に二人ずつ助けてくれた。今から考えても様々な国からきた留学生たちが一緒に危ない場面に協力した精神は今度のキャンプに別の意味を持たせたのではないのでしょうか。

そろそろ帰る時間だった。みんな濡れて泥だらけになって帰った。でもみんなの気持ちはいっそうよくなったと思った。

そのあとの温泉は一番だった。(美肌効果もあるし、ダイエット効果もある)私はダイエット効果



があることは何でも興味あるんだ。(仕方がないわ、日本に来て もう10キロ太ったのだから。)

夜はバーベキューだった。(ダイエットは明日からだ。私は美味しい食べ物に負けないことはありえないだもん) いっぱい食べていっぱい飲んだ。どうしようかなあ おなかが大きくなったと思った時、2、3人が音楽のリズムに合わせて踊りだした。よかった、ちょうどいいわ。いっぱい食べてから歌ったり踊ったりして、そして花火もやってちょっと体を動かしてカロリーを消費することができた。(実は私は踊りができないけど)

興奮して知らない間にもう夜遅くなった。そろそろ寝る時間になった。ふわふわした布団とか、枕とか全部準備してくれた。何にも心配することはなかった。料理から寝ることまで、お母さんとお父さんたちは 本当に細かく心遣いしてくれた。(感動……)

よく寝られたから翌日は元気いっぱいだった。昼ご飯後みんな写真を撮って そろそろ帰る準備だった。写真のみんなの笑顔から見るとみんなは私と一緒に今度のキャンプを楽しんでうれしい限りだった。



Bye-Bye Blues

アリザ ウオーウィ (フィリピン)

閑空の灯りのきらめきに迎えられ飛行機から降り立ったのが昨日のこのようです。

日本での時間は飛ぶように過ぎていきました。あと何日かで避けられない現実と直面します。このすばらしい国で過ごしてきたぼくの時間は終わり、自分の国に帰るのです。

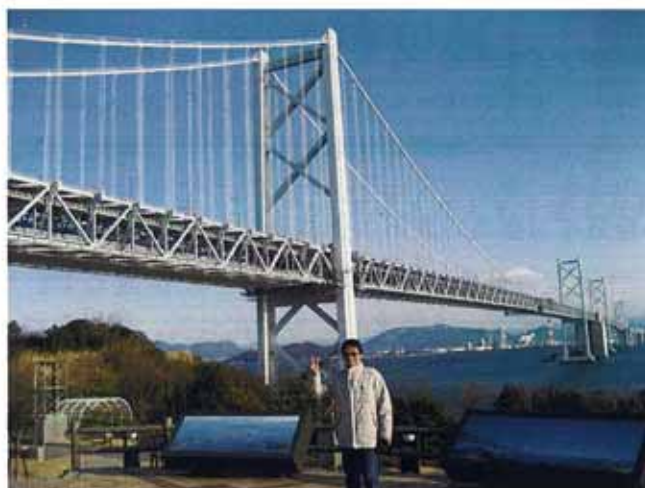
いろいろな感情が押しよせてきます。ここにいたい、けど帰らなきゃという二つの気持ちの間で僕は揺れます。一番憂鬱になるのは時を刻むチクタクの音を聞くことです。あの音を聞いていると、まだまだ体験していないことがある、まだ行っていないところがある、もっといろんな人に会いたい、もっと深くこの国のことを知りたい、そして一番簡単で、一番好きだったことですが、気持ちいい外の空気を吸って美しい日本の風景のなかを自転車でもっともっと走りまわりたいかったと、いろんな思いが沸き起こってきます。

二つのことを考えたりもします。一つめは、時計を巻き戻してもう一度やり直せないだろうか、二つめは僕の滞在期間の延長ができないだろうかということです。第一の方は、すごいタイムマシンでも発明されない限り不可能なことですが、二番目は実現しようと思えばできるかもしれないし、神に祈ればかなえられるかもしれません。しかし、愛する家族のいる場所から離れるということはそれよりつらいことです。

僕の日本での一年半は実りの多い充実したものでした。この美しい国の人々や留学生と考えを共有し、共に過ごした生活の中での経験は何よりのものだったと思います。



2006.11.12 大学祭



2007. 3. 17

見知らぬ国で、生きていく方法を学ぶには多くの努力が必要です。僕の場合、言葉が通じなかったり、日本の文化となじむことに、特に苦労しました。社会秩序の整った緊密につながった社会の中に外国人が融け込むのにはとても苦労しました。他の外国の人たちも感じているように、ことばや、迷惑、ごみだしのことや掃除などの問題で、時に疎外感を感じるときもありました。それらのことでうまくいなくて悲しいと感じたこともありました。今となってはそれも懐かしくなりつつあります。

僕にとって、日本、とりわけ和歌山は第二の故郷となりました。苦労のあった僕にとって和歌山は包み込んでくれる優しいゆりかごのような存在となりました。人々は精一杯温かく迎え入れ、もてなし、必要なときは会いに来てくれました。和歌山が僕をやさしく受け入れてくれ、人生で大切なこと、また将来への次のステップで最も重要なことに教えてくれました。地球の端っこにあるけれども堂々としたこの国から学んだことは僕をより大きな人間に変えてくれました。

ここで、和歌山での僕の滞在中いろいろお世話になった方々に心から感謝の意を表したいと思います。中谷先生、萬賀さん、宮所さんご一家、松島おかあさん、ゆうこさんともう一人のゆうこさん、えいこさん、歯科医の川崎先生（人生で経験したなかで最も痛い経験の一つになりましたが）、岡さん、みきさん、谷口さん、こまむらさん、いちのさん、たくやさん、これらの皆さんやお名前をあげていないけれども親切にいただいた多くの方々のことは僕の心の大切な場所にずっとあるでしょう。

‘さようなら’とはいいいません。

‘また会う日まで！’

私の小さなパラダイス — フィジー

カタ ドラ ケイ (フィジー)

Bula Vinaka — こんにちは

フィジーは南半球の中央太平洋に位置しています。フィジーは何世紀にもわたって、移民の到着地および十字路として、メラネシアとポリネシアの美しい島々を連結する地理を形成してきました。人口は 826, 281 人で、約半数はインドからの移民の子孫です。フィジー系 (51%) インド系 (44%) 中国・ヨーロッパなど (5%)

フィジーには、330 以上の島があり、主要な 3 つの島は、首都 Suva のある Viti Levu と Vanua Levu 及び Taveuni です。フィジーの陸地は四国とほぼ同じです。面積 180 度の子午線がフィジーの 3 ケ所を通っているため、フィジーは毎日世界で一番早く夜明けを迎える国です。(雨期 12-4 月、乾期 5 月-11 月)

フィジーは熱帯気候で、5 月から 11 月までは冬、12 月から 4 月までは夏です。夏の気温は 30 度、冬の気温は 26 度です。

フィジーは複合文化、複合人種の国です。公用語は英語で、フィジー語、ヒンディーも広く使われ、フィジー語は地域によって異なります。宗教はフィジーで重要な役割を果たしており、主な宗教はキリスト教、ヒンズー教、イスラム教です。

「こんにちは」の **Bula** (ブラ) **Vinaka** (ヴィナカ) の **bula** というのは健康という意味です。今日、フィジーの原住民は暖かい、友好的な笑顔で知られていますが、昔は強い戦士として有名でした。現在も、言語、建築、食べ物や習慣の中に伝統的な文化を伝えています。皆さんがフィジーを訪れてくれたら暖かく歓迎されることでしょう。

フィジーに来られたらぜひ味わってほしい珍しい物が 2 つあります。一つは **yaqona** 即ち **kava** という国民的な飲み物、もう一つは **lovo** という伝統的な料理です。

kava は **yaqona** という胡椒の類で、麻酔薬にもなるハーブのような低木の根を粉にしたものから絞る液で作られる **kava** ジュースのことです。これを 2 杯飲むと口がひりひりして体がしびれたような感覚になります。**kava** を飲む会に入るときには、杯を受ける前に "**Bula**" と言って手をたたきます。**kava** は伝統的に体にいい飲み物と考えられ、薬としても儀式的飲み物としても使われます。**kava** の儀式はフィジー人の生活様式を中心であり、また、

伝統的な歓迎の儀式でもあります。しかし **kava** は、妊娠中や母乳で子育てしている女性や病気の人々は飲んではいけません。**kava** をすすめられた場合、手を挙げたり首を左右に振って断ってもかまわない。**Kava Ceremony** では、招待する側は伝統的な衣装 (**sulu, bula** シャツなど) を着るが、お客さんはジーンズや T シャツなど普段着を着ます。

Lovo は簡単に言うと、土中に埋めた熱い石の上で作られる地中バーベキューです。火で熱された石を浅い穴の底に置きます。その上にヤシの葉やバナナの葉で包んだチキン、魚、豚肉などを置きます。さらに **dalo** (タロイモ) や **cassava** (タピオカの木の根)、**Uvi** (ヤマノイモ) などを上に置いて、土をかぶせて 2、3 時間置きます。地中から掘り出された **lovo** は大きなバナナの葉の上に並べられ、祝宴のごちそうになります。**Lovo** も楽しんでください。

フィジーの人達は伝統的に顔や体にいろいろな色や模様を塗りました。フィジーを訪れた客を歓迎するために、フィジーの太鼓 **lali** (木の太鼓) が演奏されます。来客はサルサルというフィジーの花の首飾りをかけられます。そして来客をもてなす **メケ** という踊りが踊られます。**メケ** という踊りは伝統的な歓迎儀式として、重要な役割を持っており、フィジーの多くのリゾートやホテルでも見られます。神への信仰を試す火渡りも伝統的な文化です。

Nadi はフィジーの主要国際空港です。島と島の間の交通は空路と海路です。フィジー経済の主要な収入源はサトウキビ産業と観光です。宿泊施設は **ブレ** という竹とヤシの葉で屋根を葺いたコテージスタイルの家から 5 つ星リゾートホテルまであります。



ガボンの童話

クリスチャン ボンメイヨ (ガボン)



私の勤務している部屋、ガボンの労働雇用省の中にあります。私は、人材統括室の部長です。私の仕事は主に、ガボンの経済社会にかかわるすべての部門において、求められる雇用を適時に国民に与えることができるように、雇用政策とその充実を図っていくことです。ガボン政府は、社会政策として雇用という問題を提起されており、つまりそれは失業者の減少と国民の資質向上をめざすものです。

私達は、雇用とその促進、という点において他国との国際外交協力を結んでおります。正に、日本とガボンの国際協力の時であります。私は、日本政府（文部省）の奨学金によって日本の経験と高い技術を、私の国ガボンの発展に必要な、日本の雇用政策と失業対策への日本の戦略の中に見出しているわけです。私は、この日本とガボンの協力に感謝し、この双方の協力関係が経済のあらゆる部門において、ますます強まり維持されていくことを願っております。



ガボンの豊かさを象徴するもので、名前を「石油の建造物」といいます。ガボン鉱山炭化水素省です。この建物はガボンの首都、リーブルヴィル

にあります。ガボンの鉱物資源は豊富で、主要なものとして、石油、マンガン、鉄、ダイヤモンド、バリティヌ、ニオビウムなどがあります。これは国土のほんの一部の地域で採取されています。おおくの鉱床がまだ手付かずのままです。多くの鉱床の徴候が見られる場所の研究のためにも投資がなされていかなければなりません。

ひょうのンゼゴ君とカメレオンのルンバラ君

むかしむかし、アフリカのガボンという国で、ンゼゴ君というひょうが、お友達のカメレオンのルンバラ君にいつも自慢して言いました。

ンゼゴ君 「ルンバラ君、君はどうしてそんなに歩くのがおそいんだろうね。」

ルンバラ君 「ンゼゴ君、そんなことないよ。僕は君より早いかもしれないよ。」

ンゼゴ君 「それなら、いますぐ競争してみよう。」

ルンバラ君 「いやいや。それなら明日の朝にしよう。」

カメレオンのルンバラ君は、すぐに森に帰って、仲間を大勢集めました。森中のカメレオンが集まって、明日の試合の相談をしました。

すべてのカメレオンがレースのあちこちに陣取りました。朝が来ました。いよいよスタートです。ひょうのンゼゴ君はびゅーんものすごい速さで、かけ出しました。そして最初のゴールに着きました。するとおどろくではありませんか。目の前の草むらからルンバラ君が現れたのです。

ルンバラ君 「おや、ンゼゴ君、君は今着いたの？ 僕のほうが早かったねえ。」

ひょうのンゼゴ君はくやしそうに次のゴールへとすごい速さで走り出しました。そして、あっという間に次のゴールに着きました。ところが、なんと、おどろいた事にまたもや目の前にカメレオンが現れたのです。

ルンバラ君 「おや、君は今着いたの。また、僕の勝ちだねえ。」

次のゴールも次のゴールも、こうしてンゼゴ君とルンバラ君（いや、カメレオン君たち）の競争がつづきました。どこまでいってもひょうのンゼゴ君は、カメレオンに勝つことができませんでした。

新留学生紹介

デビッド ガネム (アメリカ)

アメリカから来たデビッドと申します。日本語の専門で、3年位前から勉強しました。教育学部の1年間の交換留学生です。

短いように感じて、この1年間は色々すばらしい体験や友達ができています。日本人だけでなく、特にこの国際交流会館では、他の国からの人々と出会う、さまざまな文化や伝統に触れて、たまにはぶつかったりするが、それを話し合っ、交流することが面白いと思います。それが一番よく聞かれた質問の答えとなって、世界中の色々な文化や人々と接して、友達を作って成長したと思います。

私の趣味と言えば、日本語と他の言葉を学ぶことです。あとは、ダンスと卓球ぐらいですね。将来はとりあえず英語の先生であれば、翻訳家か通訳をして、日本や他の国にも、中国とかに住んでみたいです。世界中の色々な所に行ってみたいと思います。

朱 震 (中国)

和歌山大学教育学部国際文化課程1回生です。1987年6月7日生まれで、身長180CM、体重60KGです。今年20歳になります。とても嬉しいです。

去年10月日本に来て、大阪に住んでいました。4月28日に和歌山へ来たばかりです。和歌山の人には大阪より親切です。生活の自信も増えています。和歌山はきれいな所で緑が多いです。こちらで多くの友達をつくりたいです。各国の学生と一緒に勉強して遊ぶのがとても楽しいです。

私は中華料理が得意です。自分で好きな料理を作って、生活費も節約できます。スポーツが大好きです。サッカーが上手です。パソコンは苦手です。長所は、きめたことは是非最後まで頑張ります。短所は、すこし頑固です。

各国の文化を理解するために、国際文化を選びました。将来、途上国の援助のボランティア活動に参加して、国際舞台で働きたいです。これからもよろしくお願いします。

孫 遥 (中国)

私は、孫遥と申します。半年前に中国から交換留学生として参りました。

私は、料理が好きです。そう言っても、作ることは上手と言えないです。小さい時から、父が料理をつくるたびに、私は絶対そばに立ったまま



した。一番好きな番組も料理教室です。だから、中華料理についての理論的な知識はいっぱいです。でも、前はずっと通学で、大学の寮には、キッチンがついていなかったの、自分で作る機会はありませんでした。これから、中華料理だけではなくて、日本料理とか、イタリア風とか、アメリカ風とか、色々な作り方に挑戦してみ、ますます上手になればうれしいです。

みなさまのおかげで、あっという間に、すごく楽しい半年がもう経ってしまいました。すごく素敵な経験ができました。これからもみなさんと一緒にもっと楽しい半年を楽しみにしています。

金 香梅 (中国)

私の名前は金香梅(きんこうばい)と申します。香(かおり)と梅(うめ)の漢字で、いつも「和歌山にぴったり合うね。」と言われます。

私は中国の吉林大学から参りました。中国で住んでいる所は、一番北の方一黒竜江省で冬になったら雪がいっぱい積って銀世界になります。でも冬の温度は普通マイナス20度くらいになりますのでとても寒い。だから冷蔵庫は要らなくて自然冷凍をしたりします。(笑)

時間が経つのが早い……。日本に来てもう半年ぐらいですね……。この間の生活は寂しくなかったです。WINコンコードの皆様のおかげで毎日充実して幸せな生活をしてきました。何の不自由もなく暮らせるように留学生のお世話をするWINの皆様にありがたいと思います。

日本に来て最初に感じたのは、日本人は親切で礼儀正しいことでした。私は日本で自分の実際の体験で日本の文化と日本人の生活習慣とかを考えると、日本と中国の文化の異なるところについてもっとも身につけたいと思っています。

日本での留学体験は未来に豊かな財産になると思います。私はまだ残った留学生生活を大切に

力を尽くして頑張ろうと思っています。

韓 智安 (韓国)

みなさん、こんにちは。韓国から来た韓智安と申します。去年の10月からこの和歌山で勉強しています。ここに来る前には和歌山について、ほとんど知っていませんでしたが、今は和歌山に来て本当によかったと思っています。町の人々は親切でやさしいし、ラーメンもおいしいですよ！みなさん、ぜひ一度味わってみてね。

そういえば、ここは韓国人があまり多くないです。それで私はいつも周りの人においしい韓国料理作ってと、頼まれたりしますが・・・困りますよ。ごめんなさい。それ以外のことならいつも歓迎します！会館に住んでいますから、暇な時にはいつでも遊びに来てください。私は様々な国の友だちとの交流が好きです。これから6ヶ月しか残っていない留学ですが、みなさんと一緒に仲よく楽しくやっていきたいと思っています。

モノ トマ (フランス)

こんにちは。私の名前はトマです。フランス人で22才です。オルレアンで生まれました。パリから南へ100キロぐらいの所です。ペルフォール・モンベリアル工科大学でコンピューターサイエンスを5年間勉強しました。和歌山大学ではネットワークシステム研究室で勉強します。和歌山大学でのインターンシップの後コンピュータエンジニアになります。

私は英語、スペイン語、フランス語、そして少しだけ中国語とイタリア語を話せますが、今はまだ日本語が話せません。ここでは、日本語の授業を受けます。国では、友達とサッカー、バスケット、テニスなどたくさんのスポーツをしました。音楽が好きだけれど、歌は得意ではありません。

日本文化を知り、日本の人々に会うために和歌山を選んで来ました。日本に来ることは私の子供の頃の夢でしたから、私は幸せです。WIN コンコードの温かい歓迎に感謝します。

ウィリース (インドネシア)

こんにちは～

インドネシアのWILLYS (ウィリース) です。私は日本に来たのは平成16年のことでした。最初日本語はぜんぜん分からなかったのですが、同じ留学生の友達しかコミュニケーションできなかったんです。

1年間日本語学校で日本語を学び、その後2年間大阪の電子専門学校に入りました。専門学校を

卒業した後、和歌山大学に第3年編入生として進学します。これからもますます頑張っていこうと思います！よろしくお願いします！

呉 怡柔 (台湾)

ヨホ！台湾からの呉怡柔です。

日本へ観光に何回も来ましたが、留学は初めてです。

大学の専攻は日本語なので、言語にはあまり支障がないと思いますが、やはり海外での一人の暮らしで何とか不安があります。

4月7日にWIN コンコードの人たちとほかの留学生と一緒に和歌山城へ花見に行きました。このパーティで、外国人生活を支えてくださる熱心なボランティアを知り合いました。きれいな桜に囲まれて、花見弁当を食べて、これは日本なりの素敵な行事だと思います。WIN コンコードの人々の熱意で異国生活による心配な気持ちも解消できました。台湾にいる家族にWIN コンコードのことを伝えたと、家族みんなはもう私のことを心配せず、WIN コンコードの支援に心から感謝しています。これから2年間和歌山で暮らして勉強します。またよろしくね。

バルバラソフィア アメルカドエルゲタ (チリ)

私はバルバラソフィア・アメルカドエルゲタです。チリから来ました。今、和歌山大学の研究生です。

チリでは教育は問題です。それで、教育行政制度を勉強したいと思いました。新聞で日本の奨学金のことを読みました。それから、8ヶ月後大阪に来ました。まず、大阪大学で日本語を勉強しました。これは難しくて、楽しくて、面白いですよ。大阪にいる間に、東京と京都と奈良と神戸と和歌山県と沖縄に行きました。ホストファミリーと歌舞伎を見ました。日本の歴史と社会はとても面白いです。景色はとてもきれいです。日本の料理は美味しくて簡単です。友達とたくさん作りました。例えばおにぎりやすしやおでんなどです。本当に日本が大好きです。

和歌山大学で日本語で教育行政制度を勉強しています。ですから難しいと思います。でも、がんばります。ここで勉強した知識、いい経験をチリにもってかえって、これからの仕事にいかしたいと思います。

ルクマン マッパ (インドネシア)

私の名前はルクマン マッパ、ルキと呼んでください。私はインドネシア人で2006年10月教員

研修生として来日しました。大阪大学で 15 週間日本語を勉強しました。4 月 1 日に和歌山に来ました。和歌山大学では教育心理学を勉強します。インドネシアの高校で英語を教えていました。よりよい教授法を身につけるため教育心理学を勉強することにしました。日本で学んだことを将来インドネシアで役に立ちたいと思っています。

程 鵬心 (中国)

程鵬心と申します。和歌山大学教育学研究科の一年生です。日本に来てから、もう 1 年半になりましたが、ずっと神戸にいたので、和歌山で暮すのはまだ一週間だけです。

皆さんの知っているように神戸は世界で有名な町です。私は中国で耳にしました。ですが、和歌山のことは日本に来てから知ったんです。最初には、通学の不便という原因で和歌山に引越しようとする時に、「和歌山ってどんなところかなあ？生活とか便利かなあ？ようやく神戸になれたが、和歌山に行ったらまたなれるかな？」と、いろんな問題に悩んでました。しかし、初めて南海和歌山市駅を出て、和歌山の地に踏んだ瞬間に「ここは神戸とか大阪とかより、もっと人間の暮らし

に絶対ふさわしいところだ、」と感心するうえに、「これからの二年間、できればより長い時間ここにいたい」と思いました。

引っ越してから、こういう思いがもっと深まってきました。人が少ないけどやさしくて、交通がちょっと不便だけど空が青い、ビルが低いけど緑が多い、にぎやかじゃないけど鷹が自由に飛んでいる。たった一週間で、もう和歌山を愛してました。

さらに、和歌山に来てから、より幸せのことに遇いました。それはボランティアの先生に出会ったことです。学校の先輩の紹介を通じて、先生と知り合いました。それから、部屋を探してもらって、自転車を貸してもらって、ひいてはバイトを紹介してもらってなど、いっぱい生活問題を先生に解決されました。先生のおかげで、ただの一週間で私はもう和歌山の生活になれました。留学生にとって、こんな世話になって、こんなお母さんみたいに関心もらえるのは何よりも幸せです。先生に心から感謝いたします！

和歌山留学生の皆さん、この町に暮らすことを誇る気持ちをもって、ボランティアの人々に感謝する心を持って、自分の夢を叶えましょう！



台湾旅行

松島 啓子

昨年11月、私達WINコンコードのメンバー6人は台湾旅行に出掛けた。

この旅行の目的は、元和歌山大学の留学生張義明氏（陶芸家）が、故郷の台北市で初の個展を開催するというので、その式典に出席する事ともうひとつは元留学生との再会であった。

出発の日が近づくに連れ、私は何故か子供のように気分が弾んでいたのは、やはり初めての台湾旅行と留学生との再会という喜びがあったからに違いない。とうとう待ちに待った出発日がやってきた。関空を飛び立って三時間あまり、いよいよ台湾に上陸、税関もスムーズに通過し、まずはホテルに直行。出発前から、滞在中の気候や天候をチェックしていたが、思ったほど暑くもなく過ごし易かった。

ホテルでは、まず呉芷慧さんの出迎えを受け、すっかり綺麗になった彼女との再会はみんなを感動させた。しばらくロビーで歓談した後、ホテル近辺のメイン通りを散策し、そのあとは待望の欣葉レストラン（台湾料理）へと向かった。このレストランは、噂に優る凄い人気で待合室は人々で溢れかえっていた。料理の方は流石本場の台湾料理とあって味よし、見た目よし、香りよしの三拍子揃った豪華版で我々のお腹もさぞかし満足したことだろう。台湾料理を満喫した後は、老若男女に人気の高い士林夜市へ連れて行ってもらった。

その場所で二人目の元留学生、李盈潔さんと出会う事になっていた。沢山の人垣の中、ひととき大きく手をふっている女性はまさしく盈潔さんだ。日本にいた頃より更にスリムになってスタイル抜群の美女になっていた。士林夜市は狭い道の両側と真ん中に色んな店が並び、見ているだけでも楽しく、その上値段も格安とあってみんなもついつい買ってしまった。

さて二日目の朝、王慧華さんが急いでロビーに現れ、彼女とは八年振りの再会だったが、活発、明朗そして明るく笑う様子はちっとも変わっていない。この日はまず、かの有名な故宫博物院を彼女の知り合いのガイドさんに案内してもらうことになった。收藏された美術品約70万点、はるか五千年の歴代王朝から伝わる中国芸術の極致である。一日や二日では到底回りきれない所だが要所のみ抜粋し、しかも二時間ほどに凝縮して中味

の濃い見学となった。故宫博物院を後にいよいよ張氏の陶芸個展会場へと急ぐ事になる。

会場の台北県立鶯歌陶芸博物館には関係者が大勢集まり、盛大なオープンセレモニーが行われた。我々も日本からの来賓として、WINコンコードメンバーも紹介された。記念撮影やら台湾側の来賓と張氏の家族との交流など、とても和やかな雰囲気であった。その後我々は博物館近くの陶芸の里で有名な鶯歌で伝統工芸を堪能した。

再び街中に戻り、小籠包で有名な鼎泰豊レストランで夕食をとる。そこにも又、十年前の卒業生曾政榔氏が家族と共にきてくれたので、更に賑やかさが増した。彼の二人の息子は子供服のファッションモデルをしているそうで、とっても可愛かった。

食事の後は全員で、101ビルに向かい、とにかく世界一高いビルなので人目最上階からの景色を見ようと上に行ったが展望台に上がるエレベーターがかなり混雑していたし、私達もそれほど時間に余裕がなかったので残念ながら夜景を見るのは諦めた。二日目も満足度は100点満点で、学生たちに出会えたお陰で我々みんな年齢のわりにはとても元気であった。

三日目は淡水散策。早いもので、台湾の旅もとうとう明日が帰国の日となった。多忙な彼女達にすっかり甘えてしまった今回の旅行では、急に予定を変更して丸山ホテルの見学に連れて行ってもらったり、普通のツアーでは考えられないような内容の濃いものであった。今回の旅行を通じて益々交流が深くなり、又、近いうちにふらっと行ってみたくなるほど台湾が好きになりました。

王慧華さん、呉芷慧さん、李盈潔さん、そして曾政榔さんご一家、みなさん本当に有難う！

謝謝！



大連訪問

大橋 寛治

楊彩虹の結婚式に招待され、中国大連に行ってみました。

平成18年5月の連休、家内と私は大連に参りました。私は、2年前、大連に旅行し観光もしましたが、家内は初めてで少し不安の様でした。楊さんは大学に在籍中、有田を訪れる事が度々あり、我々の家族と親しくなり半年程私のマンションに下宿し、湯浅の方々に多くの支援を受け、又、近所の方々にも大変可愛がられていました。お礼の意味で中国語も教えていました。

耐久高校創立百五十周年記念式典でも広州の姉妹校の代表の挨拶の通訳の大役も果たしました。

私達夫婦を、『日本のお父さん、お母さん』と呼んでいました。連休の忙しい中でしたが、こういう機会はもう一生こないと思い、出掛けました。彼女は日本語教師、彼は日産に勤務していると聞きました。12月には赤ちゃんも誕生と聞きました。式典の前後、同じ和歌山大学の留学生の方々に大変お世話になり、何不自由もなく楽しむ事ができました。今後、ささやかですが民間交流を少しでも広めたく努力していきたいと思います。

卒業生からのたより

オルンゴワ (中国 内モンゴル)

皆様はいかがお過ごしですか。なかなかお会いできる機会がありませんが、お元気で留学生達の面倒を見ておられると思います。

私の日本での四年間は、勉強だけでなく、友人関係やアルバイト、サークル活動など、多くの貴重な経験を積むことができました。

つらいことがあったときは、皆様から贈ってくださった親切なお言葉をいつも励みにしました。何かシンドイことがあると、いつもWINの方々の励ましたお声を思い出して立ち直っています。

今は内モンゴル体育職業学院の日本語の教師として働いています。

内モンゴルといえば、果たしなく広がる美しい大草原があるというのが一つ、その次には遠く離れたところにあるという印象があります。この草原は神秘的で美しいが、しかしそれほど遠いところではありません。北京から飛行機で内モンゴル自治区の区都フフホトにはわずか45分で行けま

す。汽車で行ってもわずか12時間です。ここ数年、夏になると、北京、天津など大都市の人たちは週末にフフホト、包頭を旅行し、さらに草原に足を運び、心ゆくまで遊んで、日曜日に帰宅して月曜日の仕事に間に合うようにすることができます。本当に内モンゴルは遠くはないのです。皆様、ぜひ遊びに来てください。

帰国して四年間、教師として働いています。この四年間学生に教えるというより学生に教えられたという感じがします。この四年間の経験から人間を幸福にするか、幸福にしないか秘訣は、「他人に感謝する」ことだと分かりました。良いときに感謝しないから、悪いときにもっと悪くなるのが自然です。

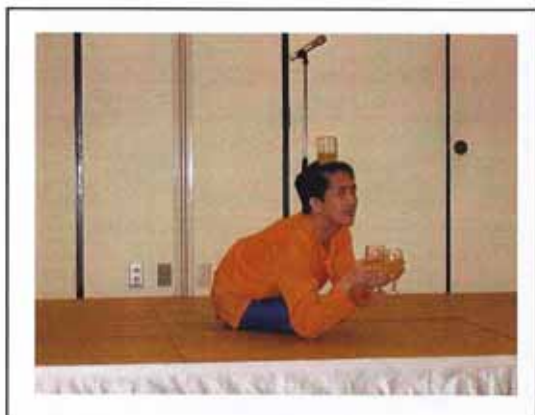
皆様への感謝の手紙や電話が少ないですが、心の中でいつも「感謝」しています。皆様の心と私の心がいつもつながっていると信じています。

2006年度 活動経過

- 4月9日 新入生歓迎花見 (和歌山城)
- 5月14日 WINコンコード総会・交流会
- 5月14日 和歌祭
- 6月8日 歌舞伎鑑賞 (県民文化会館)
- 6月16日 蛍狩り (真国)
- 7月30日 ぶんだら踊りの練習 (公館)
- 8月5日 紀州ぶんだら踊り
- 8月19日 おどろんや第3回紀州よさこい祭り
- 8/26~27日 サマーキャンプ (清水町)
- 9月27日 会社見学 (江久庵、越井木材)
- 10月15日 第13回留学生の故郷を語る集い
- 11月10日 県立美術館・博物館見学
- 11月12日 和歌山大学祭 模擬店協力
- 12月9日 みかん狩り (吉礼)
- 12月16日 和大スピーチコンテスト後援
- 12月23日 八朔狩り・植物公園緑花センター
- 1/1~3日 お正月 (ホストファミリー)
- 2/15~16日 トヨタ自動車見学とスキー旅行
- 3月4日 第14回留学生の故郷を語る集い
- 3月23日 卒業生を送る会 (ゲストハウス)

年間 住宅紹介・入居・転居の支援
生活用品の貸与、生活情報提供
ホストファミリープログラム

※ 留学生は学生証と外国人登録証明書を呈示すれば和歌山県立美術館、博物館、紀伊風土記の丘、自然博物館に無料で入場できます。



フィリピンのワインいかがですか?



きっと綺麗に撮れるよ



CHINESE POWERを見せてあげよう



舞姫だけど歩くだけ?



和歌山から世界へ広がるぶんだら



僕たちは絶対に前のグループに負けないぞ!!



さあ、もう一回踊ろうか



かんぱ〜い



ニューファッションだ!!



皆、ちゃんと真面目に聞いている?



写真撮ってるのに、僕の耳を引っ張らないでよ



全員の名前を覚えられるかな



綺麗な景色



は～い、チーズ！



さあ～気合入れて、いくぞ！！



僕の雪だるま～怖いよ



TOYOTA欲しいな・・・



彼氏とこんな車でデートできたら、いいなあ！！

WINコンコード設立趣意書

現在社会は、政治・経済・文化のすべて分野で地球を一つの単位として捉え、はじめて、その機能を十分に発揮しうる状況に至っていると思われます。そして、このかけがえのない地球の責任を担っているのは、たった一つの「種」に留まる「ヒト」即ち人間であり、その一人一人の人間が確立された個として、地球の貴重な構成要素としての役割を果たすことが求められています。民族の違いは、多様な文化の豊かさを示すにすぎず、国境は行政を効率的に行うための境界にしかすぎないのです。

WINは、人間の知恵を結集し、愛すべき郷土和歌山が、人間味溢れるネットワーク（HAN Human Active Network）で結ばれた、活性化された地域となるために活動するものです。そして世界各国から勉学の場を求めて留学して来る人々に、より良い環境を整えることは、ひとつの単位となった地球上に「HAN」を構築するうえにおいても重要なことであり、これにより、地球のひとつの地域である和歌山が、世界とダイレクトに結びつき、和歌山の優れた文化が世界に紹介され地球の多様で豊かな文化環境の醸成に寄与できるのではないかと考え、我々は、WINコンコードを設立するものです。

WINコンコード事務局

〒640-0103 和歌山市加太2201-339

TEL/FAX 073-459-3888

<http://www.wakayama-info.net>

E-mail: win@infonet.co.jp